

Dominion® KX II ソフトウェア、バージョン 2.1.10 リリースノート

バージョン : DKX II 2.1.10 リリースノート改訂版 1.2

公開日 : 2009 年 7 月 15 日

発効 : 即日

適用対象 :

Dominion KX II 全モデル :

- DKX2-108、DKX2-116、DKX2-132、DKX2-216、DKX2-232、DKX2-416、DKX2-432、DKX2-464、DKX2-832 および DKX2-864

Dominion KX II リリース 2.1.10 は従来の Dominion KXI モデルおよび DKX2-101 には適用できません。

リリースステータス : 一般提供

Dominion KX II の概要 :

Dominion KX II(DKX II)は、ラリタンの次世代デジタル KVM スイッチで、二重化電源とデュアルギガビットイーサネットポートを搭載しています。DKX II の新しいユーザインタフェースは、仮想メディア、ずれないマウス、および 1600×1200 ものリモートビデオ解像度といった高度な機能をサポートします。

リリース 2.1.10 の概要 :

リリース 2.1.10 はリリース 2.1 および 2.1.8 に基づいて作られたファームウェアリリースです。

Dominion KX リリース 2.1.10 の強化点 :

DKX II リリース 2.1.10 はリリース 2.1 および 2.1.8 に基づいており、これらのリリースのすべての機能を備えています。リリース 2.1.10 の新機能は以下のとおりです。

1. **スマートカードおよびコモンアクセスカード(CAC)ターゲットサーバ認証 :** DKX II は、リモートクライアント(VKC および MPC)からターゲットサーバへのスマートカードおよび米国防総省コモンアクセスカード(CAC)認証をサポートするようになりました。ユーザはこの機能により、各自のリモートワークステーションに接続されたスマートカードを使用して、離れた場所にあるデータセンターのターゲットサーバにリモートでログインできます。この機能は、ラック設置場所、スタンドアロンオーバーIP および CC-SG 経由でサポートされます。また、米国政府 HSPD-12、PIV および CAC 指令、ISO 7816、PC/SC および CCID 規格に準拠しています。DKX II のすべてのモデルは、D2CIM-DVUSB CIM を使用したスマートカードをサポートします。
2. **Paragon のフロントエンドとしての DKX II :** Paragon II リリース 4.6 以降で、DKX II のすべてのモデルが IP アクセスポイントとしてサポート対象となりました。これは、KVM ソリューションが IP とアナログアクセスの両方を必要とする場合や、IP アクセスと許可/認証のサポートが必要な場合(LDAP、アクティブディレクトリまたは RADIUS など)に特に役立ちます。DKX II は、DCIM-USB G2 または DCIM-PS2 によって Paragon II ユーザステーションの KVM ポートに接続されます。サポートされるユーザステーションは、P2-EUST、P2-EUST/C および P2-UST です。

3. **VKC、MPC および CC-SG に接続パラメータを保存**：接続特性(接続速度、色の階調および補正)の変更はリモートクライアントソフトウェアによって保存され、ユーザおよび DKX II ごとに保持されるようになりました。
4. **LDAP 認証の強化点**：LDAPS サーバ証明書検証オプションを含む LDAP 認証の改良と新規の LDAP サーバアクセス試験機能が加わりました。
5. **ターゲットサーバへのテキスト送信機能**：この機能は、VKC または MPC リモートクライアントからターゲットサーバ上のアプリケーションへユーザテキストを送信します。
6. **CC-SG プロキシモードの強化点**：CC-SG リリース 4.2 と一緒に使用した場合、DKX II リリース 2.1.10 は CC-SG のプロキシモードで仮想メディアおよび SSL 暗号化をサポートします。
7. **JRE バージョン 1.6.0_10 から 1.6.0_13 のスタンドアロンサポート**：CC-SG ユーザは、ご使用の CC-SG のバージョンでサポートされている JRE のバージョンを確認する必要があります。
8. **64 ビット JRE プラグインのサポート**：MPC および VKC は、64 ビット Windows OS および 64 ビット Internet Explorer 用の Sun Java 64 ビット JRE プラグイン環境で動作するようになりました。
9. **PC フロッピードライブの仮想メディアサポート**：OS レベルで、仮想メディアからリモート PC のフロッピーディスクドライブをマウントできます。ドライブが接続解除されるまで、ドライブの LED が点灯したままになりますのでご注意ください。
10. **日本語の改善**：日本語キーボードのマッピングと日本語ダイレクトモードを改良しました。日本語キーボードオプション設定時に日本語カナキーおよび R-ALT-カナキー用の定義済みマクロが作成されています。
11. **フランス語/英語キーボード変換**：リモートクライアント上でフランス語キーボード対応 DKX II を使用しているユーザがアメリカ英語キーボード型サーバへアクセスできるようになりました。この機能は、フランス語キーボードの入力を英語キーボード入力に変換します。
12. **ポルトガル語キーボードのサポート**
13. **DKX II ユーザガイドの改訂**：DKX II の Web ベースのユーザインタフェースの左パネル内にある[Help – User Guide]リンクから、リリース 2.1.10 のマニュアルを入手できます。

Dominion KX II のマニュアル：

次のユーザマニュアルが、Dominion KX II 向けに用意されています。

- **Dominion KX II ユーザガイド**：DKX II のローカルおよびリモートブラウザベースのユーザインタフェースに関するユーザガイドで、DKX II の一般的な使用方法について説明しています。
- **Dominion KX II クイックセットアップガイド**：DKX II の初期セットアップを行うための参考資料です。
- **KVM およびシリアルクライアントアクセスガイド**：ラリタン製品用リモートクライアントに関する参考資料です。
- **Dominion KX II CIM ガイド**：DKX コンピュータインフェースモジュール(CIM)に関する参考資料です。使用すべき CIM などについて説明しています。
- **Dominion KX II ブレード構成ガイド**：Dell および IBM ブレードサーバ向けの詳細な手順とスクリーンショットについて解説しています。

DKX II のマニュアルは、DKX II の Web ベースのユーザインタフェースおよびラリタンの Web サイト(Raritan.com)から入手できます。

オンラインヘルプシステムが利用可能です。左側の情報パネル内の[Help]、[User Guide]を順にクリックすると、オンラインヘルプシステムが起動します。[Contents]、[Index]、および[Search]といった各タブを通じて、適切なトピックに移動できます。テキストや画像、および広範にわたるリンクを含め、DKX II ユーザガイドのすべてを閲覧できます。

マニュアルの最新版はラリタンの Web サイト(www.raritan.com)から入手できます。ウェブサイトを開いて[サポート]タブをクリックし、[マニュアル/セットアップガイド]セクションを選択します。次いで[**Dominion KX II**]を選択します。リリースごとにマニュアルが表示されますので、該当するリリースをクリックしてください。

コンピュータインタフェースモジュール(CIM)の概要：

DKX II では、下記の CIM を使用できます：

- **D2CIM-DVUSB**：仮想メディアやずれないマウス機能に必要な、仮想メディア用デュアル USB CIM です。この CIM は OS および BIOS レベルで仮想メディアドライブにアクセスする場合や、スマートカードおよび CAC を使用する場合に推奨されます。この CIM は、DKX II リリースリリース 2.0.10 以降で利用できます。スマートカード機能は、CIM ファームウェアバージョン 3A6E 以上で利用できます。
- **D2CIM-VUSB**：仮想メディアやずれないマウス機能に必要な、仮想メディア用シングル USB CIM です。この CIM は、OS レベルのみで仮想メディアドライブにアクセスしたいユーザに推奨されます。
- **KX I DCIM**：DCIM-PS2、DCIM-USB G2 および DCIM-SUN。DCIM-USB および DCIM-SUSB は販売を終了しているため、現在は DCIM-USBG2 が推奨されます。
- **DCIM-USBG2**：DCIM-USBG2 は DKX II 用の基本 USB CIM として推奨されます。DCIM-USBG2 には小さなスイッチがあり、USB ポートを備えた SUN サーバで使用する場合はこのスイッチを「S」ポジションにセットする必要があります。
- **D2CIM-PWR**：リモート電源ストリップを DKX II に接続する際に必要です。
- **高性能 Paragon CIM**：P2CIM-AUSB、P2CIM-PS2、P2CIM-USB、P2CIM-SUSB、P2CIM-SUN、UKVMPD、UUSBPD、UKVMC および USKVMPD。
- **P2CIM-SER**：シリアルデバイスに接続できます。ファームウェア V2.63 以上をロードすることにより、DKX II スイッチでの動作保証が得られます。

リリース 2.1.10 互換性情報：

1. 上記 DKX II モデルおよびリリース 2.1.10 は、CommandCenter® Secure Gateway (CC-SG) 4.2、4.1.および 4.0 での使用において動作保証されています。CC-SG 4.2 リリースへのアップグレードを推奨します。
2. DKX II デバイスは、次の 2 つの Java ベースのリモートクライアントを使用することで、リモートアクセスが可能になります。

リモートクライアント	説明	バージョン
仮想 KVM クライアント(KVC)	ブラウザベースのリモートユーザインタフェースから呼び出される新しい Java ベースのクライアント DKX II スイッチのみ。	バージョン 2.1.10
マルチプラットフォーム クライアント(MPC)	ラリタンの従来型ユーザインタフェースを備えた最新の Java ベースの MPC DKX I および DKX II スイッチに対応	バージョン 6.0.1
ラリタンリモートクライアント (RRC)	RRC は DKX II デバイスをサポートしません。	N/A

3. MPC バージョン 6.0.1 は、DKX II リリース 2.1.10 に対応したバージョンです。
4. CC-SG をプロキシモードで使用する場合、[Application manager]内の[Default Application] タブで、初期設定を「Virtual KVM Client」に変更してください。MPC は、プロキシモードではサポートされません。今回、プロキシモードでも仮想メディアがサポートされるようになりましたが、DKX II リリース 2.1.10 および CC-SG リリース 4.2 の使用が前提となりますのでご注意ください。
5. 通常、SUN Java™ ランタイム環境(JRE)バージョン 1.5 および 1.6 がサポートされます。現時点で動作保証されている JRE1.6 のビルドは、JRE 1.6.0_01 から 1.6.0_13 です。ただし、下記の例外があります。

サポート対象外のバージョン：

SUN Java ランタイム環境(JRE) 1.4.x のサポートは終了しました。

JRE バージョン 1.5.0_02 はサポート対象外です。

CC-SG 環境では、JRE バージョン 1.6.0_03 (アップデート 3)を使用しないでください。

非英語環境においては、ログインウィンドウに問題が生じるため、JRE バージョン 1.6.0_05(アップデート 5)の使用は推奨されません。

最良の結果を得るため、Java プラグインキャッシュを無効にしておくことを推奨します。

6. 上記の JRE バージョン情報は、DKX II をスタンドアロンで使用した場合に適用されます。CC-SG と一緒に使用する場合は、CC-SG リリースノート、互換性マトリックスおよびその他のマニュアルを参照してください。
7. クライアントにブラウザに関連づけられた JRE がない場合や、JRE のバージョンが 1.5 以前である場合、SUN Java ウェブサイトから最新バージョンをインストールするよう促すメッセージが表示されます。
8. 韓国語やその他の非英語言語に対応するには、JRE のインストールの際、多言語オプションを有効にしておく必要があります。JRE をカスタムインストールする場合、イン

ストールプロセスにおいて必ず「Support for Additional Languages(追加の言語サポート)」が含まれるようにしてください。

9. 日本語カナキーおよび R-ALT-カナキーは JRE から安定して受け取ることができないため、これらのキー専用で作成された定義済みマクロを使用してください。
10. SNMP v2 MIB は、前リリースからの変更点はありません。使用する DKX II スイッチから SNMP トラップを有効にする場合は、これを SNMP 管理システムにロードする必要があります。

64 ビット Windows クライアントへの対応 : Java 要件

現在対応している 64 ビット Windows クライアントは、Windows XP Professional 64 ビット、Windows Vista 64 ビット、Windows Server 2003 64 ビット、および Windows Server 2008 64 ビットです。

仮想 KVM クライアントおよびマルチプラットフォームクライアント向けに、DKX II HTML ユーザインタフェースまたは CC-SG を通じて Java アプレットとしてアクセスする場合、下記項目が重要となります。

1. 32 ビット版と 64 ビット版両方の JRE プラグインをサポートします。
2. 32 ビット JRE プラグインは、Firefox 3.0、Internet Explorer 7 および Internet Explorer 8 の 32 ビットブラウザで動作保証されています。
3. 64 ビットプラグインは、Internet Explorer 7 および Internet Explorer 8 で動作保証されています。
4. スタンドアロンバージョンの MPC 向けに、32 ビットまたは 64 ビット JRE のいずれかを使用できます。

リリース 2.1.10 の重要な留意事項および情報 :

1. **Firefox バージョン 3.0.11 はこのバージョン固有の問題としてアプレットのロードに不具合があるため、サポート対象外です。**
2. スマートカード/CAC 認証を必要とするターゲットサーバに、D2CIM-DVUSB を接続する必要があります。DVUSB CIM には、ファームウェアバージョン 3A6E 以上がロードされている必要があります。これは、リリース 2.1.10 へのアップグレード時に DKX II スイッチに接続していればアップグレードされますが、接続していない場合は個別にアップグレードしてください。
3. スマートカード機能を使用するには、Java ランタイム環境 1.6.x と SmartCard API が必要です。また、クライアント PC とターゲットサーバはそれぞれ、PC/SC に準拠したコンピューティング環境と、標準 USB CCID デバイスドライバを備えている必要があります。サポート対象の通信プロトコル(スマートカードが使用)は T=0 および T=1 です。詳しくは DKX II ユーザガイド付録 A 中の「Smart Card Readers(スマートカードリーダー)」セクションの「Minimum System Requirements(最低限のシステム要件)」を参照してください。
4. テスト済み認定スマートカードリーダーについては、DKX II ユーザガイド付録 A 中の「Smart Card Readers(スマートカードリーダー)」セクションの「Supported and Unsupported Smart Card Readers(サポート対象および対象外のスマートカードリーダー)」を参照してください。
5. VKC および MPC は、Windows クライアントプラットフォームにおけるスマートカード/CAC 認証をサポートします。Apple MAC および SUN Solaris クライアントについては、

スマートカード/CAC 認証をサポートしません。一部の Linux のバージョンはサポートされます。下記をご確認ください。

- Linux クライアント。下記の Linux オペレーティングシステムに限り、スマートカード/CAC 認証をサポートするリモートクライアントとして、必要とされる PC/SC ライブラリバージョンで動作保証されています。

	スマートカードの要件
オペレーティングシステム	PC/SC
レッドハットエンタープライズ Linux 5 (RHEL 5)	pcsc-lite-1.4.4-0.1.el5 pcsc-lite-libs-1.4.4-0.1.el5
SUSE 11	バージョン 1.4.102-1.24
Fedora Core 10	pcsc-lite-1.4.102.3.fc10.i386 pcsc-lite-libs-1.4.102-3.fc10.i386

- Linux ターゲットサーバ。データセンターの Linux サーバのスマートカード/CAC 認証をサポートするには、新しいオープンソースカードリーダードライバが必要です。このドライバは現在配布されている LINUX では入手できません。詳しくは DKX II ユーザガイド付録 A の「Smart Card Readers(スマートカードリーダー)」セクションの「Minimum System Requirements(最低限のシステム要件)」を参照してください。また、次のバージョンの CCID ドライバが必要となります。

	スマートカードの要件
オペレーティングシステム	CCID
RHEL 5	ccid-1.3.8-1.el5
SuSE 11	CCID 1.3.8-3.12
Fedora Core 10	CCID 1.3.8-1.fc10.i386

- DKX II 8 チャンネルモデルに搭載された拡張ローカルポートは、スマートカード認証をサポートしません。
- Paragon II への DKX II フロントエンド。DKX II を Paragon II へのフロントエンドとして使用する場合は、スマートカードおよび仮想メディアをサポートしません。DKX II から初めて Paragon II OSD にアクセスする場合は、マウスを手動で同期させないでください。マウスは不要で、キーボードの応答を数秒遅らせる可能性があります。
- サポート対象となる DKX II から Paragon II ユーザステーションまでの距離は、45 メートル以内です。サポート対象となる Paragon II ユーザステーションからターゲットサーバまでの距離は、152 メートル以内です。それ以上の距離ではビデオの品質が低下する可能性があります。

リリース 2.1.8 (DKX2-8xx モデル)の重要な留意事項および情報：

1. 拡張ローカルポートは、標準ローカルポートをミラーリングすることにより、第2のロケーションまたは Paragon II スイッチへのアクセスを拡張するものであることに注意してください。
2. リモートクライアント PC リソースと、単一リモートクライアントワークステーション上の最高4セッションの同時 KVM セッションが推奨されます。
3. 拡張ローカルポートと一緒に使用する場合、UST および EUST ユーザステーションで推奨されるファームウェアバージョンは次のとおりです。
 - P2-UST : V5-1FE~P2 4.5 GA リリース以降
 - P2-EUST : EUST-3F0~P2 4.5 GA リリース以降
4. 拡張ローカルポートステーションと DKX II 間の推奨距離は下表に示すとおりです。この距離は、ユーザステーション、ビデオ解像度、ケーブルの種類/品質および環境条件によって変化します。

拡張ローカルポートの最高推奨距離 (メートル)		
拡張デバイス	1024×768、60Hz	1280×1024、60Hz
EUST を使用した Paragon II UMT	304	274
Paragon EUST	152	121
URKVM	198	76
Paragon UST	152	60

リリース 2.1(ブレードサーバ)の重要な留意事項および情報 :

- ブレードサーバへの対応は、ブレードサーバのメーカーやモデルによって異なります。一般に、ブレードサーバのタイプは、(1)CIM を各ブレードに接続するもの、(2)CIM をブレードサーバシャーシの内部 KVM スイッチまたは管理モジュールに接続するもの、の 2 通りに分けられます。モジュールは、DKX II と連動するよう構成する必要があります。この方法については、マニュアルを参照するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。DKX II ブレード構成ガイドでは、Dell および IBM のブレードサーバ向けの詳細な手順とスクリーンショットについて解説しています
- 個々の Dell 1855/1995 ブレードに接続する場合、「USB Front Dongle for Dell PowerEdge 1855/1955」ケーブルが必要です。メーカー部品番号は N8138、Dell 部品番号は 310-6484 です。HP c3000 と c7000 の場合、「HP c-Class Blade SUV Cable」(部品番号は 416003-001)を使用します。ポートをグループ化するには、[Port Group Management]機能を使用します。
注：HP c3000 向け内部 KVM モジュールは、本リリースでは対応していません。
- Paragon ブレードサーバの CIM は、DKX II では使用できません。ブレードサーバのポートタイプ(PS2 または USB)、および高度機能(仮想メディアなど)に対応しているか否かによって、適切な DKX II CIM を使用してください。詳しくは、DKX II CIM ガイドを参照してください。
- 仮想メディアやずれないマウスは、CIM が各ブレードに接続されているブレードサーバでサポートされます。ただし、ブレードの OS がそれらに対応していることが前提です。また仮想メディアは、シャーシの前面および背面の接続に D2CIM-DVUSB を使用する場合、自動検出機能とともに IBM Blade Center E および H シャーシでサポートされます。
- 内部 KVM スイッチを搭載したブレードサーバシャーシの場合、パフォーマンスと信頼性の観点から、DKX II 1 台あたりのブレードサーバの数を 8 台に制限する必要があります。CIM を個々のブレードサーバに接続する場合は、そのような制限はありません。
- IBM BladeCenter は、高度管理モジュール(AMM)に対応しています。本リリースでは、旧版の管理モジュールは動作保証されません。DKX II は活動 1 次マネジメントモジュールとして、AMM[1]について自動検出だけをサポートします。
- IBM BladeCenter には、以下の最低限の AMM ファームウェアが推奨されます。
マネジメントモジュールファームウェア
メインアプリケーション：BPET36K
リリース：04-22-08
名称：CNETMNUS.PKT
Rev：54
- IBM BladeCenter のブレードサーバへ接続する場合、ビデオが表示されてからマウスを動かすまで数秒間待つ必要があります。これを怠るとマウスの同期がとれなくなり、手動で同期させる必要が生じる場合があります。
- CC-SG 環境では、いったんブレードシャーシタイプのポートを DKX II に合わせて構成したら、そのブレードシャーシをほかのポートに移動しないでください。
- 現在、DKX II-101 および DKSX II 製品はブレードサーバ機能に対応していません。
- ブレードシャーシタイプのポートを DKX II に接続する場合、[User Management Group] ページをローカルポートからではなくリモートで編集する必要があります。

12. リリース 2.1.10 とブレードサーバ機能を使用するには、**CC-SG 4.1**(またはそれ以降)が必要です。以前のリリースの **CC-SG** を使用していて、内部 **KVM** スイッチを搭載したブレードサーバシャーシを使用する場合、個々のブレードサーバは標準の **KVM** ポートとして表示されますが、ブレードサーバの機能は使用できません。**CIM** に直接接続されたブレードサーバの場合、個々のブレードサーバは標準の **KVM** ポートとして表示され、接続することができますが、「**Port Management**」グループ化機能とブレードサーバ機能は使用できません。ブレードサーバに完全に対応するには、**CC-SG 4.1** を使用してください。
13. 詳しくは **DKX II** マニュアル、**DKX II CIM** ガイド、および **DKX II** ブレード構成ガイドを参照するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。

以前のリリースにおける強化点：

DKX II リリース 2.0.20/2.0.21 では、以下の機能の強化および改良がなされています。

1. **IPv6 と IPv4 のデュアルスタックネットワーキング**：DKX II は、IPv4 と IPv6 に同時対応するデュアルスタック IP ネットワーキングを提供します。関連する DKX II 機能も、IPv6 に対応するよう改良されています。また、IPv6 ネットワーク設定や、SNMP や LDAP などの IPv6 アドレスでアクセス可能な外部サーバをサポートし、IPv6 デバイス検出機能も備えています。詳しくは、ユーザガイドを参照してください。
2. **外部モデム**：ソフトウェアは、DKX II の背部パネルのモデムポートへ接続される外部モデムに対応しています。モデム接続のためには、MPC スタンドアロンクライアントを使用する必要があります。モデム使用に関する重要な情報については、下記やユーザガイドを参照してください。
3. **コマンドセンタセキュアゲートウェイ接続管理の強化**：CC-SG の管理下にある DKX II がネットワーク接続の不具合により CC-SG との接続を失った場合、デバイスは自動的にかつ一時的にスタンドアロンアクセスが有効になります。管理者ユーザはデバイスを CC-SG 管理から切り離すこともできます。接続が復旧すると、デバイスの CC-SG 管理は自動的に再確立されます。
4. **256 ビット AES(Advanced Encryption Standard)**：DKX II は、256 ビットの AES 暗号による SSL 接続に対応できるようになりました。このオプションは[Security Settings]ページで有効化できます。一部のブラウザバージョンは 256 ビット AES 暗号に対応していないため、ご使用のブラウザが対応しているかどうかを確認してください。
5. 欧州向けキーボードにイタリア語とスロベニア語が追加されました。
6. DKX II ユーザガイドおよびラリタクライアントガイドが更新されました。ユーザガイドのリリース 2.0.20/2.1.10 バージョンは、DKX II の Web ベースのユーザインタフェースの左パネル内にある[Help – User Guide]リンクから入手できます。
7. リリース 2.0.20 へのアップグレード時に外部 Radius と LDAP の認証に不具合が生じる現象が一部に見られましたが、リリース 2.1.10 へのアップグレード時に解消されています。
8. 日本語および韓国語のキーボードで、仮想 KVM クライアント(VKC)と CC-SG が連動できるようになりました。
9. さらにセキュリティが強化されました。

以前のリリースに関する重要な留意事項および情報：

1. 両方の電源装置が、デフォルトでモニタされます。電源が 1 つしか繋がれていない場合、フロントパネルの LED が赤く点灯します。[Device Settings]メニューの[Power Supply Setup]機能を使用して、単一の電源入力を許可するよう設定します。
2. 安定したネットワーク通信のため、DKX II と LAN スイッチの LAN インターフェース速度と二重化の設定を同じにしてください。例えば、DKX II と LAN スイッチの両方において、「Autodetect」(推奨)に設定するか、100Mbps/全二重といった一定の速度または二重化に設定します。
3. 仮想メディアには、次のような必要条件があります：(1)D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB は、サーバの USB ポートに接続すること。(2)オペレーティングシステム(OS)または BIOS は、USB 接続されたデバイスに対応していること。(3)ユーザはクライアント、ターゲット、および DKX II に関して、必要な管理者権限を有していること。
4. サーバや OS の一部には、仮想メディアオプションに対応していないものもあります。一般的に、Windows Vista™、2003 Server、XP および最新の修正プログラムを適用した Windows 2000 など、最新の Windows® OS は仮想メディアオプションに対応しています。Linux や Mac OS を実行しているターゲットサーバに Windows クライアントからアクセスする場合は、CD/DVD ドライブ、USB ドライブ、および ISO イメージのマウントが可能です。Mac®、Linux および Solaris™クライアントでは、ローカルまたはリモートドライブから ISO イメージのみマウントすることができます。その他の UNIX ベースの OS では通常、仮想メディアはサポートされません。
5. 一般的に、BIOS に応じて仮想メディアに関する USB2.0 規格の実装状況が異なるため、仮想メディアドライブから BIOS レベルでブートできない場合があります。**OS や BIOS レベルで仮想メディアを使用する場合は、D2CIM-DVUSB CIM を推奨します。**OS レベルで仮想メディアを使用する場合、および BIOS レベルで特定の BIOS でサポートされているとき、または適用可能な BIOS USB プロファイル機能がある場合、D2CIM-VUSB を使用します。一部の BIOS は USB デバイスをブートデバイスとしてサポートしておらず、よって仮想メディアが使用できない場合がありますので注意してください。
6. Windows OS では、マウントした仮想メディアドライブの接続を切断する際、ターゲットサーバのシステムトレイで[Safely Remove Hardware]機能を使用しないでください。代わりに、仮想メディアのメニューから[Disconnect]コマンドを使用して切断してください。
7. ローカルポートのユーザは、アクティブな USB プロファイルを変更できない点に注意してください。変更が必要な場合は、いずれかのリモートクライアントから実行してください。
8. ずれないマウス機能には、それに対応する OS が必要です。一般的に、Windows と Mac の OS は対応していますが、Linux および UNIX ベースの OS(AIX、HP-UX、Solaris)は対応していません。
9. 仮想 KVM クライアント(VKC)でパネルが開くと、クライアントや関連するブラウザのタブおよびウィンドウは、そのパネルが閉じるまで、ユーザ入力を待っている状態になります。
10. Web ブラウザの更新またはリロード機能/ボタンを使用する際、VKC セッションが閉じることがあるのでご注意ください。
11. D2CIM-PWR は電源ストリップに含まれていないため、別途購入する必要があります。
12. AES 暗号化を使用する際は、まずお使いの Web ブラウザがこの暗号化機能に対応していることを確認し(全てのブラウザが対応しているとは限りません)、[Security Settings]パネルで[Encryption mode]を「AES」に設定します。「Auto」に設定した場合は、通常 RC4

暗号化が適用されるのでご注意ください。128 および 256 ビットの AES 暗号化がサポートされます。

13. ビデオ画像を最良に保つため、CIM から DKX II までの距離に関する下記のガイドラインを順守してください。

サーバのビデオ解像度	距離
1024×768 以下	45 メートル
1280×1024	30 メートル
1600×1200	15 メートル

14. ネットワーク帯域幅を、より低い帯域幅の環境に合わせて最小化するには、リモートクライアントの[Video Settings]パネルの[Noise Filter]を、デフォルト値の「2」より大きい値に設定します。値「3」または「4」が推奨されます。
15. リモートおよびローカルコンソールにおいて、通常ほとんどの管理機能が使用できます。しかし、一部の機能はその性質から、一方のコンソールのみで使用できます。例えば、[Factory Reset]および[Local Port Settings]機能は、ローカルポートで使用できます。[Firmware Update]、[Backup and Restore]、および一部の DKX II の[Device Diagnostics]機能は、リモートクライアントで使用できます。
16. IPv6 を使用する上での注意点：出荷時には IPv4 ネットワーキングが設定されています。IPv6/IPv4 の「デュアルスタック」オペレーションを実行するには、[Network Settings]パネルで IPv6 を有効にする必要があります。IPv6 はスタンドアロン構成で使用可能です。サードパーティソフトウェアに起因する制限により、仮想メディア接続中、リモートの ISO イメージに IPv6 経由でアクセスすることはできません。Apple の MAC OS Leopard での IPv6 には対応していません。
17. 外部モデムの使用：モデム接続のためには、スタンドアロンのマルチプラットフォームクライアントを使用する必要があります。これは raritan.com のファームウェアセクションで入手できます。パフォーマンスを高めるため、モデム接続の接続パラメータは、4 ビットグレーおよび 33 Kbps に設定します。モデム接続を通じたファームウェアのアップグレードには対応していません。
- 推奨モデムは、US Robotics(USR)56K 5686E、Sportster 56K および Courier 56K、ZOOM v90/v92 です。現在のところ、Apple MAC と Linux クライアントからのモデムセッションには対応していません。外部モデムを介して USR モデムと接続している DKX II にリモート接続する場合、最良の結果を得るためには、リモートモデムは USR モデムと同じタイプである必要があります。詳しくは、ユーザガイドを参照してください。
18. ユーザ管理設定、デバイス設定、およびセキュリティ設定を変更する場合、ページ最後にある[OK]ボタンをクリックして変更を保存、有効化してください。
19. SUN の背景画面：黒色の境界線がある背景(例：NoBackDrop)など、一部の SUN 背景画面は、特定の SUN サーバ上で完全に展開することができません。この場合、他の背景を使用するか、左上端に明るい色のアイコンを配置してください。
20. ポート(CIM)の名前に、アポストロフィ(')を使用することはできません。
21. Mac OS の場合、DKX リリース 2.1.10 で動作保証されているブラウザは Safari™です。Mac サーバの場合、ずれないマウス機能が必要です。特定のポートに対しては、[Port Configurations]ページで「Mac OS-X(10.4.9 以降)」USB プロファイルを有効にする必要があります。

ファームウェアアップグレード :

ソフトウェアの強化、新機能および改良を含む新ファームウェアのアップグレードリリースが利用可能です。これらのアップグレードはラリタンの Web サイト www.raritan.com より入手できます。サポートページに進み、[Firmware Upgrades]をクリックし、左側のナビゲーションパネルの Dominion KX II をクリックするか、直接次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.raritan.com/support/firmwareupgrades/dominionkxii>

新しいファームウェアリリースのエントリを検索してください。次の項目を含むリリースノートがご覧になれます。(a) 新機能および拡張機能の概要、(b) 重要な操作上の説明、(c) ファームウェアアップグレードの説明。デバイスをアップグレードする際は、リリースノートの説明に従ってください。

DKX2-832 および DKX2-864 モデル用ファームウェアファイルは、他の DKX II モデルとは異なりますのでご注意ください。 1、2 および 4 ユーザモデル用と 8 ユーザモデル用の 2 種類のファームウェアファイルがあります。CC-SG は両方のモデルをアップグレードできます。

リリースパッケージの詳細

リリース 2.1.10 ファームウェアファイルおよびその適用可能対象は次のとおりです。

DKX II モデル	ファームウェアファイル	対象モデル
8 ユーザモデル	DominionKX2-8Firmware2.1.10.rfp	KX2-832、KX2-864
1、2、4 ユーザモデル	DominionKX2Firmware2.1.10.rfp	KX2-108、KX2-116、KX2-132 KX2-216、KX2-232 KX2-416、KX2-432、KX2-464

詳細なリリースバージョンの情報

この章では、Dominion KX II Release 2.1.10 のファームウェアについてのより詳細の情報につきまして、2.1.10.xxxx のフォーマットまで解説いたします。4 番目の '5' のについてはプロダクトとしてのリリースをしめています。5 番目の 'xxxx' についてはビルドナンバーになります。8 ユーザモデルと 1,2,4 ユーザモデルについては、また工場ですべてインストールしているファームウェアと、raritan のウェブページによって提供しているファームウェアについては異なるビルドナンバーで提供しております。ファームウェアのリリース・バージョン情報については下表のとおりとなります。

DKX II モデル	ディスクリプション	ファームウェア・リリース・バージョン
8 ユーザモデル	.rfp ファイルによるファームウェアのアップグレード	2.1.10.5.7929
8 ユーザモデル	工場インストールのファームウェア	2.1.10.5.7948
1、2、4 ユーザモデル	.rfp ファイルによるファームウェアのアップグレード	2.1.10.5.7927
1、2、4 ユーザモデル	工場インストールのファームウェア	2.1.10.5.7946

ビルドナンバーが異なるファームウェアにおいても、同一のリリースにおいては、同じ機能/性能となります。

ファームウェアアップグレードの前提条件：

問題がある場合、または下記の前提条件が満たされない場合には、アップグレード作業を中止し、ラリタンのテクニカルサポートへお問い合わせください。手順を開始する前に、リリースノート(本書)の全てに目を通してください。

一般的なアップグレードの説明(ブラウザベースのユーザインタフェースからのスタンドアロンアップグレード)：

1. **注：最良の結果を得るため、ファームウェアアップグレードを適用する前に、必ず DKX II デバイスを再起動してください。** これにより、ユーザがログインしていない状態、またはセッションがアクティブでない状態にすることができます。
2. DKX II デバイスをアップグレードする場合、ユーザは DKX II ユニットのアップグレードするための管理権限を持つデフォルトの Admin Group メンバである必要があります。
3. アップデート処理を完了するには 20 分以上かかります。更新やその後の再起動にかかる時間は、DKX II に接続している CIM の数とタイプによって異なります。
4. ファームウェアアップグレードの推定所要時間は、システムに表示されます。ネットワークの状況やその他の要素により、この推定所要時間よりも時間がかかる場合があります。
5. アップグレードを開始する前に、リモートコンソールの[Maintenance]メニューの[Backup / Restore]機能を使用して、DKX II のバックアップをとることを推奨します。
6. DKX II ユニットの接続しているすべてのデバイス（サーバ、電源ストリップ、シリアルデバイスなど）へのリモートまたはローカルの DKX II セッションを終了してください。
7. VPN を経由してファームウェアのアップグレードを実行する場合、接続が安定していること、無通信のタイムアウトが設定されていないことを確認してください。
8. アップグレードの実行手順に関する詳細な説明は、以下を参照してください。
9. ソフトウェアアップグレードはフラッシュメモリに書き込まれるため、完了までに時間がかかります。アップグレードの実行中は、ユニットの電源やイーサネット接続を切断しないでください。
10. DKX II ファームウェアは CC-SG によってアップグレードできます。詳しくは CC-SG マニュアルをご覧ください。
10. アップグレード中に何か不具合が生じた場合、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。

アップグレード手順の説明：

1. **注：最適な結果を得るため、ファームウェアのアップグレードを適用する前に、必ず DKX II デバイスを再起動してください。** これにより、ユーザがログインしていない状態、またはセッションがアクティブでない状態にすることができます。
2. Internet Explorer(またはその他の対応 Web ブラウザ)で、お使いの DKX II ユニットの IP アドレスを入力し、Web ベースのインターフェースが読み込まれるのを待ちます。
3. 管理ユーザ「admin」(またはその他の Admin Group メンバ)としてログインします。
4. [Maintenance]メニューで、[Firmware Upgrade]コマンドをクリックします。
5. アップデートを含む.rfp ファイルを検索します。[Upload]ボタンをクリックします。現在のバージョンと新しいバージョンが表示されます。[Upgrade]ボタンをクリックし、アップグレードを開始します。
6. ファームウェアのアップグレードが進行します。
 - a. アップグレード中、DKX II の操作はできません。
 - b. アップグレードの進捗状況はアップグレードパネルに表示されます。このアップグレードプロセスには 15 分以上かかります。

アップグレードまたはリブート中は、DKX II の再起動や、電源の切り替えは行わないでください！

 - c. アップグレードが完了すると、完了メッセージが表示されます。
7. デバイスが再起動およびリセットされます (約 5 分)。
8. 再起動が完了したら Web ブラウザセッションを閉じ、再度ログインします。
9. アップグレードが完了すると DKX II はビープ音を発し、ローカルコンソールポートにログイン画面が表示されます。
10. Web ブラウザまたはローカルポートから再度ログインします。[Maintenance]メニューの[Upgrade History]レポートを使用してアップグレード状態を確認してください。
11. DKX II のアップグレード時に、DKX II に接続している DKX II CIM(D2CIM-VUSB、D2CIM-DVUSB、および D2CIM-PWR)もアップグレードされます。
12. スマートカード機能に対応するには、DVUSB CIM にファームウェアバージョン 3A6E (またはそれ以上) がロードされている必要があります。[Maintenance]メニューの[CIM Firmware Upgrade]メニューを使用して CIM のバージョンを確認し、アップグレード後に追加された D2CIM-DVUSB CIM がある場合はそのアップグレードを行ってください。
13. 新リリースでは機能が改良されているため、リリース 2.1 以降からリリース 2.0 へのダウングレード(またはバックアップファイルでのリストア)はできません。
15. アップグレード中に何か質問や不具合が生じた場合、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください

DPX 2.1.10 リリースノート改訂版 1.1

2009年7月9日

本書は、ラリタンのユーザのみを対象としたものであり、ラリタン社の書面による明示的な許可なく、その全部または一部を他の目的に使用することは禁じられています。

Copyright ©2009 Raritan, Inc. CommandCenter、Dominion、およびラリタン社のロゴは、Raritan, Inc.の商標または登録商標です。Solaris および Java は Sun Microsystems, Inc.の商標です。Windows および Windows Vista は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Mac および Safari は Apple Inc.の商標または登録商標です。その他すべての標章はそれぞれの所有者の財産です。